

# BDFバスプロジェクト

BDFバスプロジェクトチーム代表  
中江 勇太 (経済学部4回生)

## 団体紹介

私たちBDFバスプロジェクトチームは、「環境問題に対して滋賀大学の学生ができること」をテーマに、大学直通バスの燃料を環境に優しい燃料に変えるプロジェクトを推進しています。

メンバーは中野桂ゼミの有志の学生を中心に4回生が6名、3回生が2名、合計8名が主体的にプロジェクトに携わっています。私たちの理念に共感してくれる学生をこれからもっと増やしていきたいと考えています。

## 環境に優しい燃料—BDFとは？

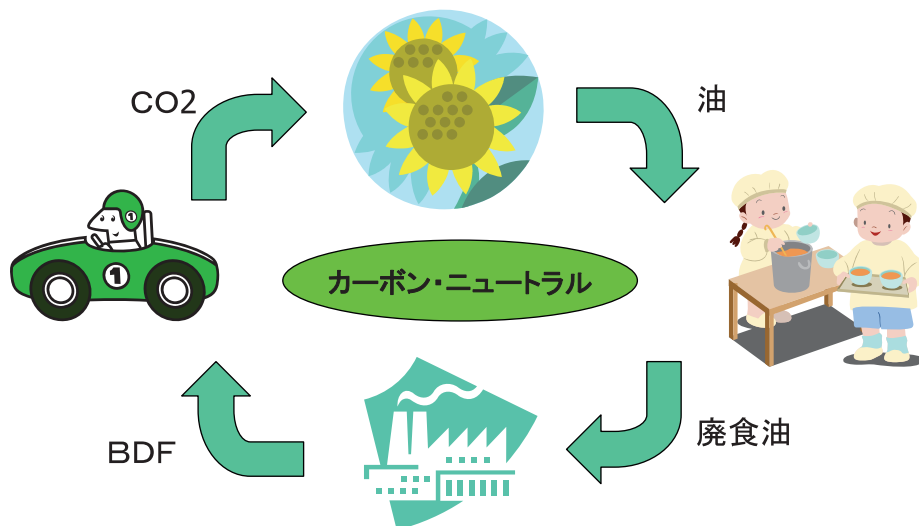
BDFとはバイオディーゼル燃料のことを指し、何とその原料は皆様がお家庭でお使いになる天ぷら油なのです！使用済みの天ぷら油は新聞紙に吸わせて捨てる、市販の凝固剤で固めて捨てる、最悪の場合はそのまま流しに捨てられてしまう「ゴミ」として扱われています。

その「ゴミ」がバスを動かすBDFという「燃料」に変わるのです。しかも天ぷら油は植物から絞られた油が主流ですので、植物が育つ過程で吸収したCO<sub>2</sub>を、バスが吐き出しながら走っていることになり、化石燃料のように大気中のCO<sub>2</sub>を増やさずエコな燃料としても注目を集めています。

2008年3月から滋賀大学の食堂の廃食油も全て回収されBDFへと精製されています。



桜花祭でのBDF使用のゴーカート



BDFの概念図

## 活動紹介ー楽しく・無理なく・優しくエコに

私たちは2007年度から活動を開始し、バスの燃料をBDFに変えるため様々な取り組みを学生が主体となって行ってきました。BDFの精製・販売を行う協力企業を探し、食堂の廃食油を回収していただくことから始まり、BDFを直通バスでも使用していただけるようにバス会社に協力を依頼し、BDFを使用する際にかかる費用について大学と何度も交渉を重ね、ついに2008年5月19日の大学役員会で正式にBDFバスの運行開始が決定され、7月22日より運行を開始します。

これにより、2007年度実績で年間2,000～2,500 lの廃食油が回収され、それを基に計算した滋賀大学のCO<sub>2</sub>削減量は5～6 tにもなります(廃食油回収ベース)。今はまだ食堂の廃食油を回収するのみですが、まだまだこの滋賀大学には「ゴミ」として捨てられている天ぷら油がたくさんあるはず。それを「燃料」に変えることで、より環境に優しい大学へと変わるために。台所という油田を拡大していきたいと考えています。



## これからー広がり循環の輪！

私たちの活動はまだ始まったばかりで、まだまだ学内でもその活動の認知が広がり始めたというところ。これからはより多くの人に私たちの活動を知ってもらい、何らかの形で私たちの活動に関わっていただける窓口を作りたいと考えています。

直通バスを利用していただくこともその窓口の一つです。運賃を支払うということが同時に環境保護の費用を負担するということにもなるからです。

今回私たちが作り上げた循環の輪はまだまだ小さなものですが、皆様のご参加によってより大きな輪へと広げていきたいと思えます。まずはバスに乗ることから始めてみませんか？



アースキャラバン2008を招いて